

FORO

News Letter

Vol.70 2026.3.18

あそんでばかりでいいの？

1月25日（日）、大阪国際女子マラソンの声援が響く真横で、また別の熱気に包まれた一室がありました。フォロ主催のシンポジウム「あそんでばかりでいいの？～フリースクールから見える子どもの世界～」の会場です。

シンポジストのおひとり、古山明男さんが、人類の700万年の歴史から狩猟採集時代の学習本能として遊びをとらえるお話をしてくださったあと、もうひとりのシンポジスト天野秀昭さんが、プレーパークせたがやの活動を通して、遊びに夢中になる子どもたちのようすや、遊び場のあり方を紹介してくださいました。古山さんが「（大人の）心配のまなざしから、いかに子どもを解放してあげるか」と言えば、天野さんが「子どもが主役の遊ぶ世界は人（大人）からの評価を必要としない、子どもどうしの関係のなかにある評価」と返す。長年の経験から語られる芯の通った言葉の数々に、「そう、そう」とうなずいたり、「それはどうだろう？」と考えさせられたり、お二人の想いや知恵をたくさん授けていただきました。質疑応答の時間も多めにとったので、フロアからの質問にもその場でたっぷり答えていただきました。

53名の参加者があったのですが、44名の方に回答していただいたアンケートのうち、満足したと答えてくださった方が93%もあり、大好評のうちに終わることができました。アンケートの自由記述欄から一部をご紹介します。



シンポジウムのようす（1/25）
古山明男さん（左）、天野秀昭さん（右）

- ・「あそんでばかりでいいの？」というテーマで、これだけ人生におけるヒントが得られるとは思っていませんでした。
- ・学術的な視点で「遊ぶ」ことについての大切さを教えていただいてよかったです。
- ・「子どもの理由なき情熱を大切に」という言葉に納得しました。
- ・楽しく生きよう、とことんあそぼう、やってみようと思った。
- ・現代のスマホや課金ゲームは依存させられるようにつくられているので、「やりたいようにやらせていいのかな」という疑問はありました。

アンケートにも寄せられたように、現代の遊びの大きなウェイトを占めるゲームや動画は、人類の歴史からすると未知の領域であり、お二人は、大人がそれ以上に面白いことを伝えられる環境を持ち合わせていないのではないかと指摘されていました。そのあたりも含め、今後の実践にどう落とし込むのか、このシンポジウムで学んだことをふまえて考えていきたいと思えます。

（事務局長・中嶋千賀）

卒業生インタビュー

この3月で卒業するGくんインタビューしました。彼は小学2年生からフォロに通いはじめて、長い時間を過ごし、この2~3年は、最年長として、フォロのミーティングなどを主体的に支えてくれました。彼の卒業は、スタッフも感慨深いです。

—どのようないきさつでフォロに来ましたか？

小学校1年の1学期が終わるまでは、ふつうに学校に通っていましたが、夏休みに入って一気にスイッチが切れて、行く気がなくなり、夏休みが終わって2学期が始まっても、なかなか行く気にはなれませんでした。通う日が減っていき、たまに行くと変に歓迎されるので、より通いづらくなって、2年生になるころには、ほとんど行っていませんでした。フォロは、もともと母親がフォロと関わりがあって、物心つく前から来たことがあったので、他のフリースクールも見ましたが、なじみのあるフォロに行こうと決めました。

—フォロの第一印象は？

物心つく前からだったので、第一印象は覚えていませんが、みんながそれぞれ好きなことをしていたと思います。

—最初のころは、どんな日々を？

小学校高学年や中学生ぐらいの人たちに誘われて、いっしょにゲームをして、そこで初めてゲームの楽しさを知りました。

—最初のころと今とで、過ごし方の変化は？

ゲームをしているのは、最初も今も大きくは変わっていませんが、最初のころは、特定の仲がいい人がいなかったの、遊んだり話したりする相手を選ばずやっていたのが、いまは大体決まった相手と話しています。

—フォロにいたのは何年ぐらい？

メンバーとして来ているのは12年ぐらいですが、物心つく前に来ていたことを数えると、年齢と同じ19年です

—記憶に残った人やイベントは？

一番記憶に残っているのはフォロに来ていたスタッフのことです。その人と、ふだん自分がやらないジャンルのゲームをやったり、どうでもいい話をしたり、勉強を教えてもらったりして、なかなかふだんは経験できないようなことだったと思います。

—大学に行こうと思った理由は？

このまま何もせず家にいるだけでは何にもならないし、就職しようという気もなかったので大学に行って、いろいろな人と触れ合うことで、何かやりたいことが見つかるかとも思い、大学に行くことを選びました。

—「自分の気持ちを言うのが苦手」と教えてくれたことがありましたね。一方で、最近、大学の目標は「人とタスクではない話をする」と聞きました。それが目標になった理由は？

高校生のとき、学校ではいっさい他の生徒としゃべらず、そのときは別にいいと思っていたのですが、卒業のとき、少し後悔したので、同じような気持ちにならないようにしようと思い、そのような目標ができました。

—最後に。フォロ卒業前に思っていることは？

物心つく前からずっとフォロに来ているので、なかなか想像できませんが、新しい生活でも、それなりにうまくやっていければいいなと思っています。

*

Gくん、長いあいだフォロに通ってくれてありがとう。Gくんのこれからのを、みんなで応援しています。
(聞き手：湯上俊男)

「通う」のではなくても

「フォロであそぼう」というイベント（積水ハウス株式会社「マッチングプログラム」助成事業）は、現在フリースクール・フォロに在籍しているメンバーにかぎらず、平日に無料で親子で参加していただけるイベントです。「平日に親子で」なので、親御さんがその日お仕事を休むことができ、子どもの気持ちも体調も、その日になってみないとわからない部分も抱えつつなので、前もって申し込んでくださっている親子さんも、当日に「やっぱり無理で……」となることもめずらしくありません。それでも、ちらほらと予約をいただけたら、参加につながったりするのはとてもうれしいことです。

ベネッセコーポレーションの調査では、不登校経験のある小中学生の子どもがフリースクールを「一度も利用したことがない」と答えた保護者が82%だったそうです（2026年1月15日「日本経済新聞電子版」）。しかし、フリースクールの利用を希望するかの質問には「条件が合えば利用したい」が74%と最も多く、「利用するつもりはない」（11%）、「考えたことがない」（6%）となっていました。調査は、ベネッセの保護者向けアプリと不登校向け情報サイトに登録している小1～中3の保護者2240人を対象としているため、すでになんらかのアクションを起



2 / 17
雪遊び（函館山スキー場にて）

している保護者が対象と見てよいでしょうし、子どもの意見は記事には紹介されていませんでした。働いていて、子どもが不登校になっても、その行き先を探すだけの時間的、あるいは経済的・心理的余裕がない保護者さんも多くいらっしゃるでしょうし、フォロでも、「うちの子は“人が怖い”と言って……」という声を保護者から聞く機会が増えています。「どこにも通いたくない」子どもも増えているかもしれません。そうした、なんらかの理由から「フリースクールに日々通う」ことが難しい人に向けても、この助成金のおかげで、「1日なら」「無料なら」と思っただけのイベントを開催できることは、大事なことでと思っています。よかったら、一度遊びに来てみてください。「通わなければならない場所」ではなく「ちょっと試せる居場所」があること。その安心感を届ける活動を、これからも大切に続けていきたいです。
(代表理事・湯上俊男)

推しのNPOに

労働組合や生活協同組合で働く人たちが助け合うためにつくられた近畿労働金庫（ろうきん）が、今年度から「推しのNPOプロジェクト」という取り組みを始めました。「推しのNPO」とは、各支店が地域で子ども支援活動をしているNPOのなかから、応援したい団体を選んで寄付金による支援をしたり、さまざまな連携を目指すという取り組みです。大阪中央支店からフォロが選

ばれ、5月の全体会議で活動を紹介させていただきました。そのほかには、ひらかたパークのチケットをいただいたり、UAゼンセンの男女共同参画学習会に「不登校の子どもをもつ親の現状と支援について」というテーマで招かれたりしました。子ども支援活動団体とつながってこうという企業の取り組みが、不登校だけでなく子育て中の働く親にとって、働きやすい、休みやすい職場に変わっていく一助となることを願います。

(理事・里中和子)

働き方改革

長年、フォロの労働環境は、優良とは言いきれない部分がありました。ホワイトな働き方を目指したいが、人件費に割ける予算が潤沢ではなく、気をつけないとすぐにブラックに陥ります。そこでフォロでも、働き方改革を進めることにしました。

まず、就業規則を策定することにしました。従業員が10名未満であれば義務付けられていませんが、今まであいまいになっていた部分を整理し、明文化することで働きやすい職場を目指すべく、昨年度、大阪市地域公共人材派遣という制度を利用しました。社会保険労務士の方などに複数回ご訪問いただき、フォロにふさわしい就業規則についてアドバイスをいただきました。

そしてその流れを活かすため、今年度は厚労省の働き方改革推進支援助成金を申請。就業規則を労働基準監督署に届け、年次有給休暇を計画的に取得するよう整備しました。さらに、勤怠管理などに「kintone」というクラウド型システムを導入することで、働き方の実態が見えやすくしました。

なにかとアナログでやっているフォロも、ついにICTの労務管理導入です。おたがいの信頼のうで働いてきた良い面は残しながらも、職員に負担がかかりにくい職場をつくっていきたいと思います。
(事務局長・中嶋千賀)

総会のご案内

6月7日(日)午前10時～通常総会を開きます。運営について忌憚のない意見をいただきながら、今後を考える機会にしたいと思っています。NP〇会員の方が議決権を持ちますが、フォロの運営に関心のある方であれば、どなたでもオブザーバー参加できますので、お問い合わせください。

ください!

- ・お菓子類(個包装)
- ・Switch 2、Switch ゲームソフト(シビライゼーション7、ウォブリーライフ、ゼルダ無双)
- ・ホワイトボードペン(青)
- ・音響用スピーカー(ライブ使用できるもの)
- ・図書カード
- ・長形3号封筒、郵便書簡、切手、一筆箋、宛名ラベルシール24面(3×8フチなし)
- ・A4コピー用紙、A4カラー用紙
- ・電話機(子機付き)、ノートPC
- ・トイレ掃除シート、トイレトペーパー
- ・ティッシュ、ゴミ袋(45L)、紙コップ、スリッパ、防音マット etc...
- ・ 아이폰充電ケーブル、不要になったスマホやタブレット、プレステ5本体、ベイブレードXスターター4種セット、エクストリームスタジアムBX-10、10禁止エアガン、ポケモンカードスタートデッキ(新しいの)
- ・七輪、炭、薪
- ・単3・単4電池

いつも、この欄に「ください!」とお願いすると、いろんな方が物資を届けてくださり、ほんとうに助かっています。お金だけではなく支えていただいていること、ありがたいかぎりです。感謝申し上げます。

Foro News Letter 第70号

発行日 2026年3月18日
 発行者 特定非営利活動法人フォロ
 〒537-0025 大阪市東成区中道1-3-43
 Tel 06-6720-8100 Fax 06-6720-8101
 E-mail: info@foro.jp
 URL <http://foro.jp>

郵便振替口座 00900-1-25564
 加入者名 特定非営利活動法人フォロ

ゆうちょ銀行 〇九九店(ゼロキュウキュウ店)
 口座番号: 当座 0025564
 名義: 特定非営利活動法人フォロ